



東ドイツの歴史的都市

ヴァイテンベルゲとベルレベルク

東ドイツの小都市を訪問して

長谷川栄子「ユニット書」

東のノスタルジー

レーニン像が舞台を飾った「オスタルギー・パーティー」が、昨年10月に東ベルリンで開かれた。壁崩壊から10年、統一を祝う記念式典がドイツ各地で行われたその年、もし生きのびていたならば東ドイツは建国50周年を祝っていたはずであった。「オスタルギー」とは、東の「オスト」と「ノスタルジー」を合わせた言葉であるという。建国40周年の祝典の1ヵ月後に自らの国がなくなることを、当時の東ドイツの人々は誰ひとりとして想像できなかったに違いない。

祝典には、東ドイツ時代を懐かしむ約3千人が集まったようだ。東は西へ行く自由を獲得した一方で、経済や制度の崩壊によりその基盤を失い、これに伴う給与格差などは、東西ドイツ人の心の距離感をいまだ大きなものとしている。

統一後10年、東ベルリンに首都機能を移し、東欧諸国のEU加盟の後押しをするドイツには、今もなお東西格差という「壁」の残像が浮んでいるように思われる。

記念式典が華々しく催されたそのほ



図1 ヴァイテンベルゲとベルレベルクの位置